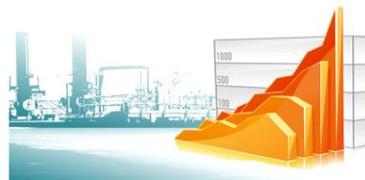


ぎふ経済レポート



令和2年7月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは 7月27日～29日を中心に実施し、8月17日に作成。

景気動向

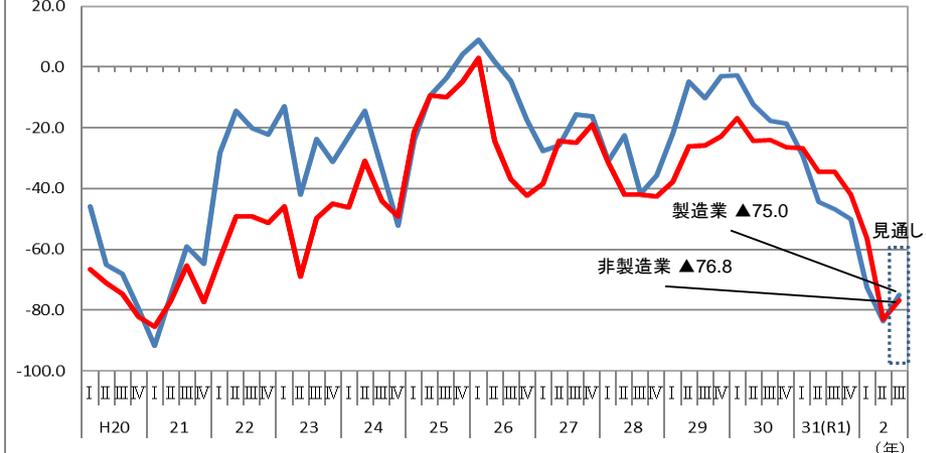
- 5月の景気動向指数(一致指数)は、75.8で前月比▲11.2ポイント悪化した。
- 6月の県内中小企業の景況感は、▲77で前月比6ポイント改善した。

- 7-9月の景況DI見通しは、製造業で8.8ポイント、非製造業で6.4ポイント改善した。
- 同売上高DI見通しは、製造業で▲12.0ポイント、非製造業で▲5.4ポイント悪化した。

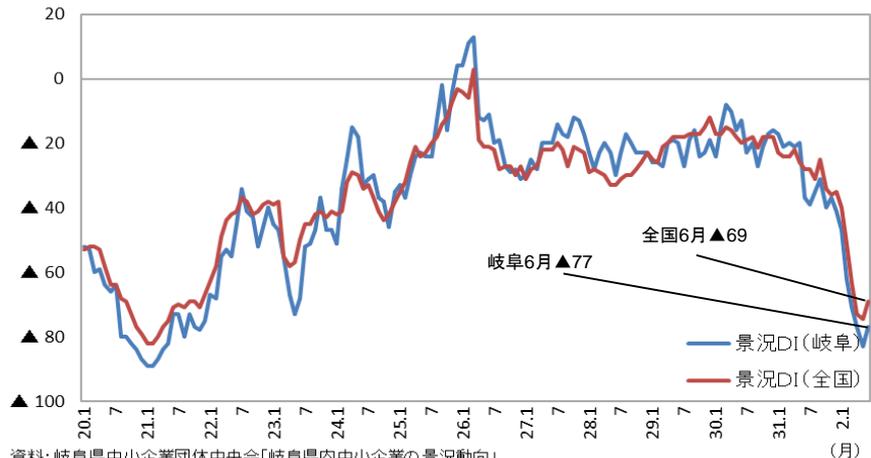
岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移



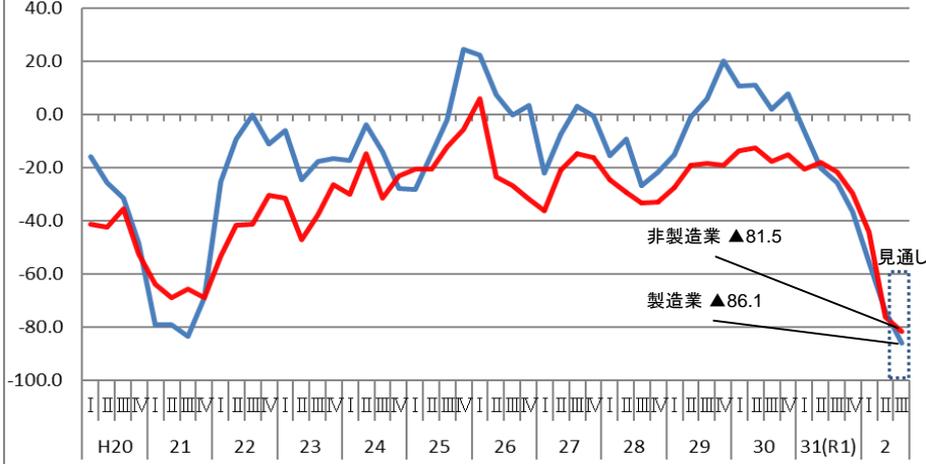
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移

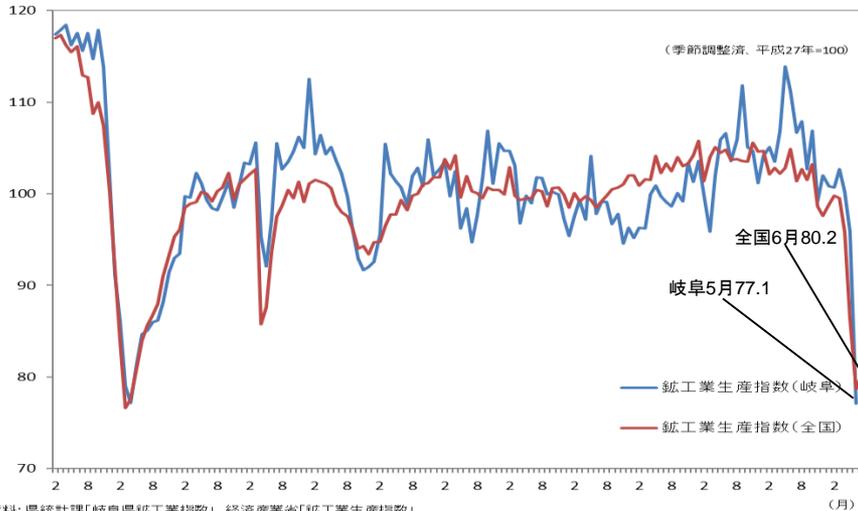


製造業

○5月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、77.1で前月比▲19.6%と低下した。
○前月比では、主な産業全てで低下した。

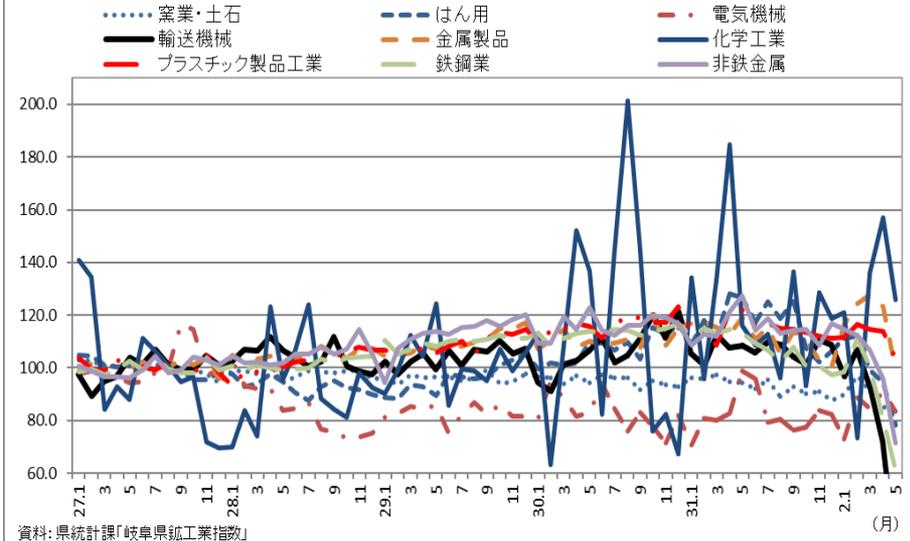
○5月の主な産業の指数は、輸送機械で前月比▲57.4%、非鉄金属で同▲25.5%、鉄鋼業で同▲24.0%、化学工業で同▲19.8%となるなど、全てで低下した。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)



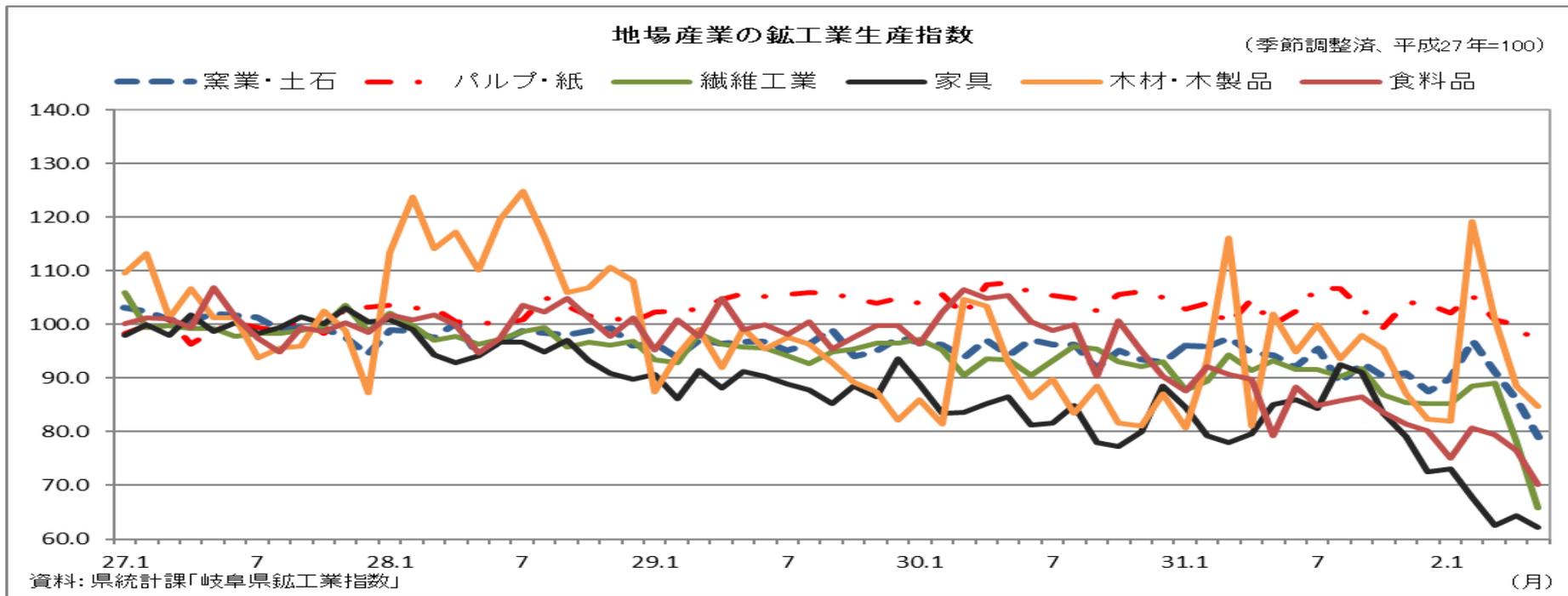
現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆足元は客先の在庫積増しによる受注が旺盛であり8月まではこの流れが続くようだが、その後の見通しが出来ず大変不安を感じる。(輸送用機械)
- ◆防衛産業関係の新規部品の量産が来年度より開始するため、今年度は量産試作を行う。(輸送用機械)
- ◆6月が底で、7月は前年同月比で80%程度まで生産が回復したと感じている。海外の状況については、中国市場がほぼ100%、欧米市場が60~70%まで戻った。(輸送用機械)
- ◆原材料のアルミ価格は7月から下落傾向にあり、リーマンショック時の水準まで下がっている。(輸送用機械)
- ◆工場の稼働率は約70%である。工作機械をメインとしているが、受注が大幅に減少しており、回復の見通しが立っていない。今後まだ減る可能性がある。(はん用機械器具製造)

製造業-2

○5月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、繊維工業で前月比▲15.9%、食料品で同▲8.4%、窯業・土石で同▲8.0%、木材・木製品で同▲4.4%、パルプ・紙で同▲3.9%と低下するなど、全ての地場産業で低下した。

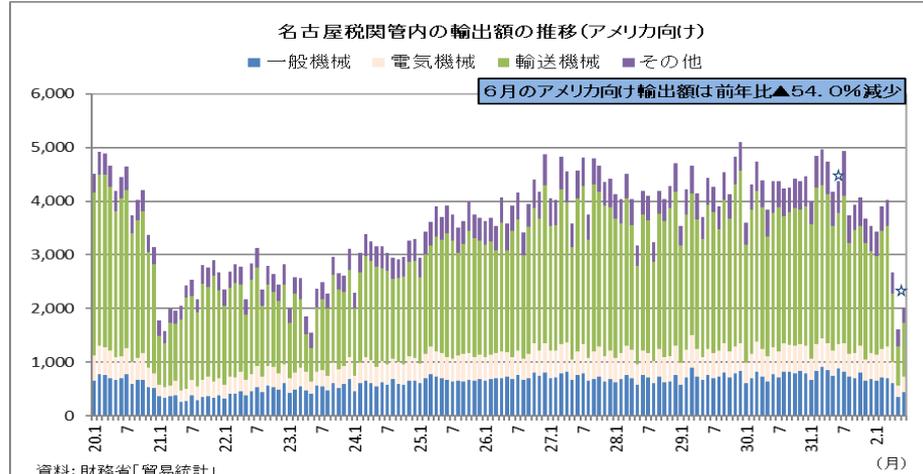
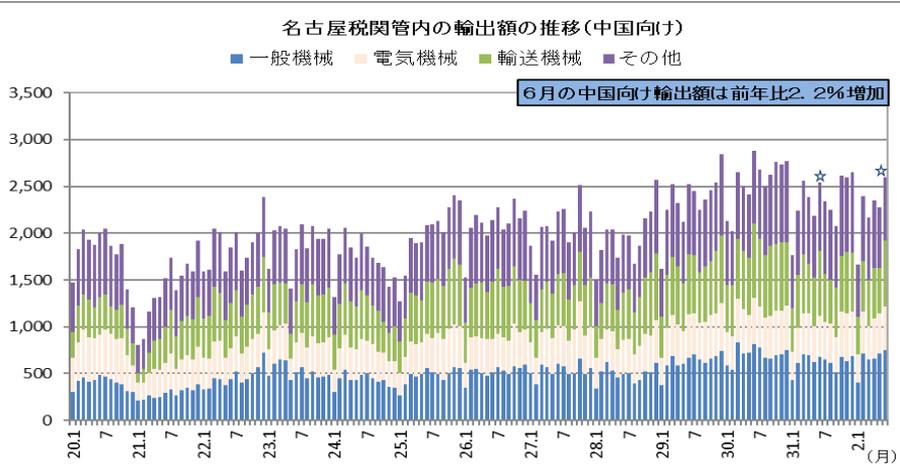
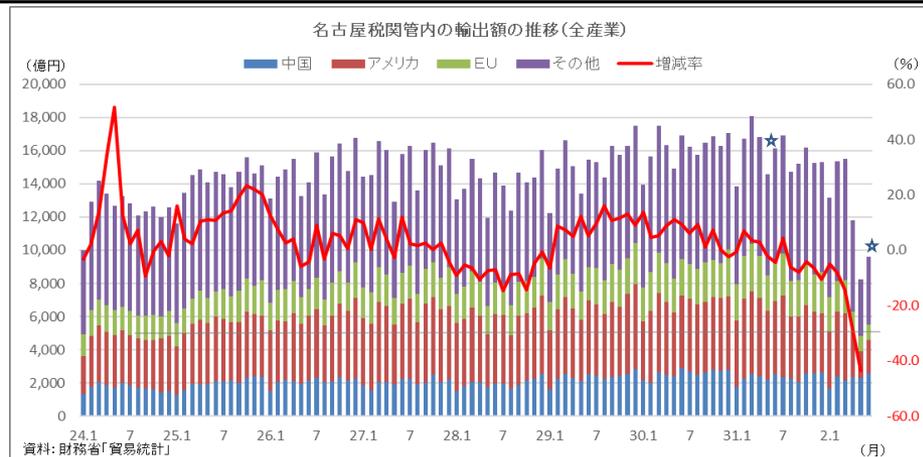
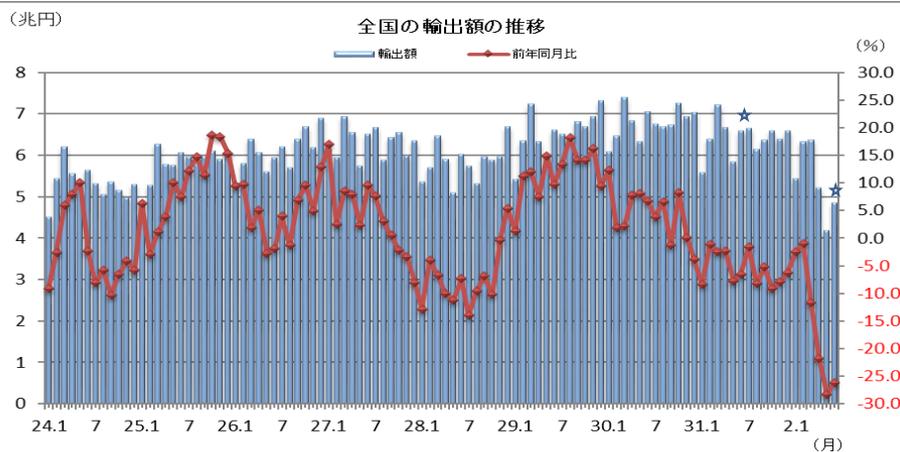


現場の動き (※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆東京・大阪への出張ができないことに加え、相手が在宅勤務であることが多いため、従来のような商談ができない。これまでは新型コロナウイルスの影響前に受注した仕事があったが、その仕事も尽き、これから厳しい状況になる。(繊維)
- ◆巣ごもり需要の増加から、DIY用の軽いレンガ風タイルの需要が伸び、ECモールや自社ECサイトの受注が安定してきている。(窯業)
- ◆マスクや紙石鹸などの衛生関連商品の売上が大きく伸びているものの、お土産物や食品関係(食器類)は落ち込んでおり、全体の売上は前年同月比で10%程度減少した。(窯業)

輸 出(名古屋税関管内)

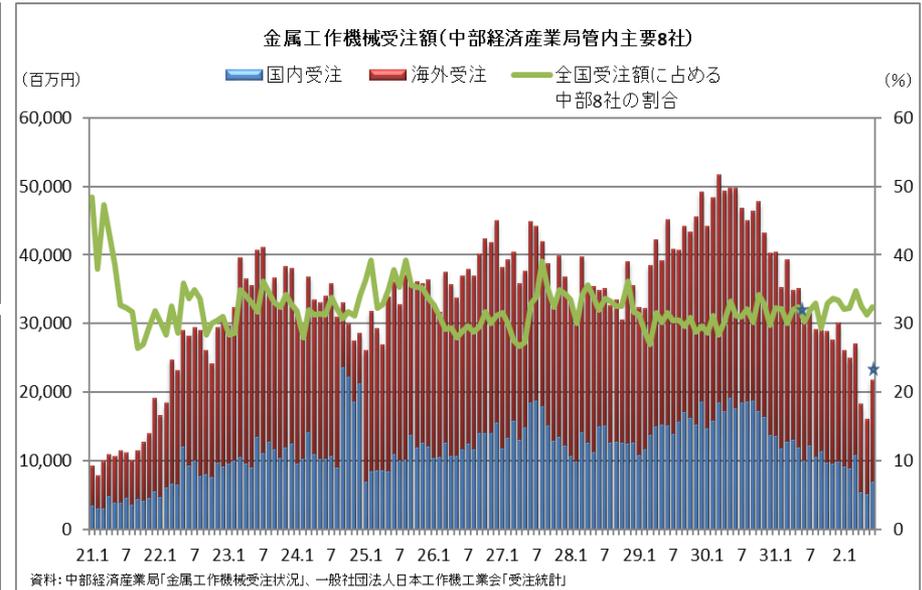
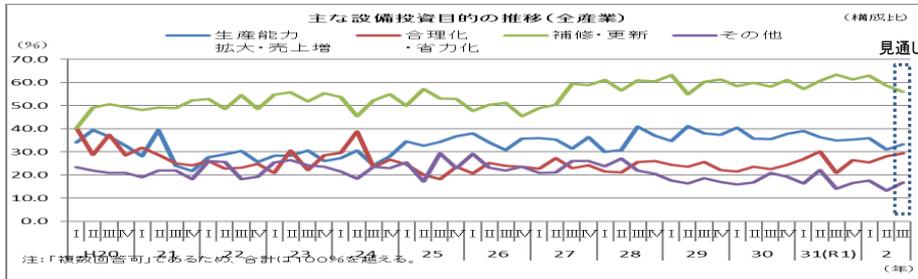
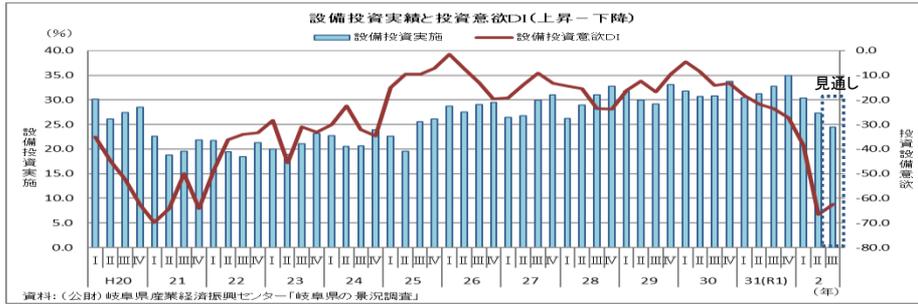
- 6月の輸出額(全国)は、4兆8,623億円で前年同月比▲26.2%と19ヶ月連続で減少となった。
- 6月の輸出額(名古屋税関内)は、9,621億円で前年同月比▲40.4%と減少し、11ヶ月連続で前年同月を下回った。
- 中国向けは、全体で前年同月比2.2%増加した。その内、一般機械は前年同月比11.3%、電気機械で同6.1%、輸送機械で同1.0%増加した。アメリカ向けは、全体で前年同月比で▲54.0%と大幅に減少し、11ヶ月連続で前年を下回った。その内、輸送用機械で前年同月比▲59.6%、一般機械で同▲49.1%、電気機械で同▲37.0%減少した。



設備投資

○7-9月期の設備投資実施見通しは前期比▲2.8ポイント低下、設備投資意欲DI見通しは同4.0ポイント上昇。設備投資実施見通しの目的別では、「生産能力拡大・売上増」で前期比2.2ポイント、「合理化・省力化」で同1.2ポイントと上昇し、「補修・更新」で同▲2.7ポイントと減少した。

○6月の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比▲27.3%と20ヶ月連続で前年を下回った。内訳は国内受注では同▲29.9%と19ヶ月連続で前年を下回り、海外向けも同26.0%と20ヶ月連続で前年を下回った。



現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆国のサプライチェーン補助金制度を利用して生産効率の向上を狙った設備投資を計画している。(生産用機械器具製造)
- ◆原価低減や生産性向上につながる投資を進めており、一部工程の無人化装置を試験的に導入する予定がある。(紙製品製造)
- ◆計画していた設備投資がペンディングになるなど、設備投資意欲は低い。(金融機関)

製造業関係における新型コロナウイルスの影響について

- ◆現在求人中の男性オペレーター(契約社員)には、過去類を見ない数の応募があった。(食品製造)
- ◆手土産需要のうち、個人用は増えており帰省や親戚で集まる機会があるようであるが、企業による手土産需要が全くない。全体としては前年同月比で60%程度である。(食品製造)
- ◆渡航制限により海外駐在員の交代が出来ず、帰任・赴任時期を調整している。外国人実習生についても就労期間の調整をしている。(輸送用機械)
- ◆7月の売上高は、前月比において減少、前年同月比についても減少した。電子材料関係は引き続き堅調であるものの、自動車関連・建設機械関連で出荷が減少した。また、外出自粛に伴って外食産業向けも低迷している。(輸送用機械)
- ◆5月末の緊急事態宣言解除後から自動車関係で企業活動が正常化しつつあり、リモート営業ができるようになった。(輸送用機械)
- ◆想定より生産の回復が早い。8月は90%まで回復する見込み。一方、バス、トラックの戻りは遅い。海外工場の生産状況については、コロナの感染が著しいメキシコが厳しく、タイも前年同月比50%程度。一方、中国は同100%を超えている。(輸送用機械)
- ◆緊急事態宣言解除前後で、大きな変化はなく、得意先も大きな動きはない。海外工場は通常どおり稼働している。国内工場は、自動車関連が戻りつつあり、稼働率は70~80%くらいである。6月は毎週金曜日を休みにしていたが、7月、8月は通常どおりの勤務としている。(輸送用機械)
- ◆感染拡大の第2波の影響もあり、首都圏への出張は引き続き制限している。(輸送用機械)
- ◆自動車メーカーの生産は緩やかに回復しているが、完全回復には程遠い。新型コロナウイルス感染拡大の第2波によって、持ち直した購買意欲が再び低下に向かう恐れがある。中国向けの建設機械部品、自動車部品に関してはコロナ禍前の生産水準に戻っている品目がある。(生産用機械器具製造)
- ◆海外出張はいまだできず、営業活動や納入検収、現地サポートに支障が出ている。(生産用機械器具製造)
- ◆アメリカの一部、ブラジル、インドの工場が動いておらず、受注が減っている。(はん用機械器具製造)
- ◆オフィス街における昼食やイベント等が無くなりコンビニの売上が減少したため、コンビニからの受注が減少した。(プラスチック製品製造)
- ◆移動や集会を制限しており、業界内の情報交換の場がない状況が続いている。(窯業)
- ◆東京の営業所では、在宅勤務・時差出勤を導入している。少なくとも、時差出勤については、このまま恒常的に実施することになるとと思われる。(刃物)

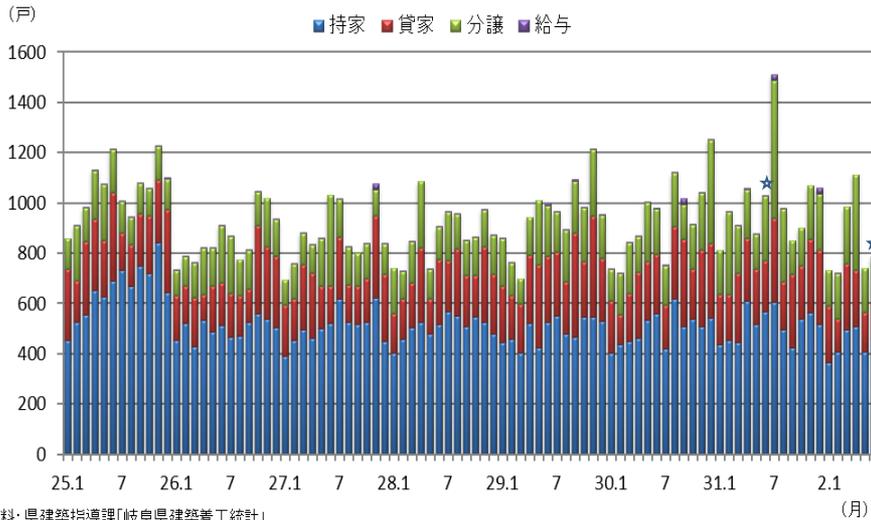
住宅・建築投資

○6月の住宅着工戸数は、前年同月比▲23.4%と前年同月を下回った。

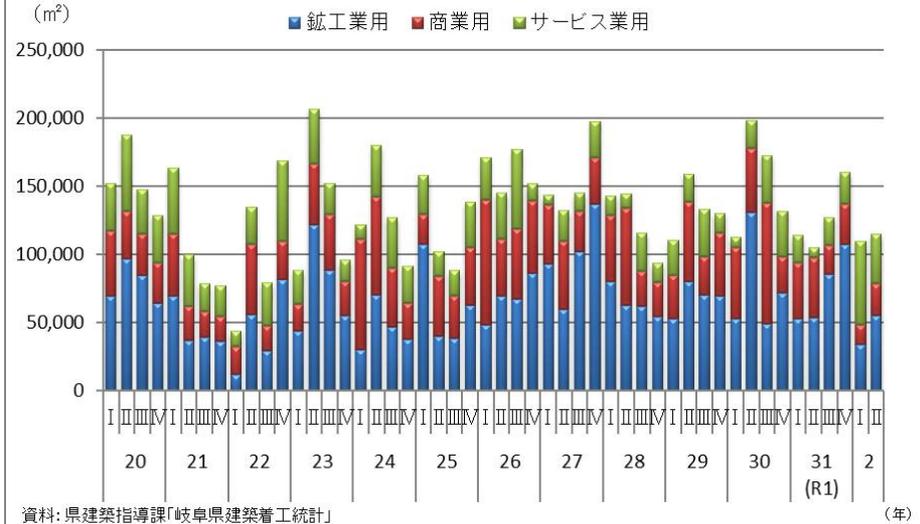
○分譲で前年同月比▲31.1%、貸家で同▲25.7%、持家で同▲18.9%減少した。

○4-6月期の建築着工床面積は、商業用で前年同期比▲46.5%と減少したものの、サービス業用で同373.3%、鉱工業用で同2.7%と増加したことから全体としては同9.1%と増加した。

新設住宅着工戸数の推移



県内建築着工床面積(非居住用・用途別抜粋)

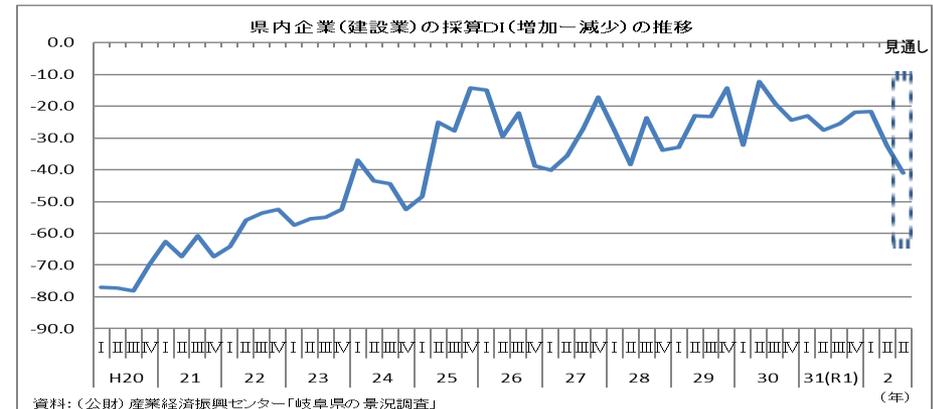
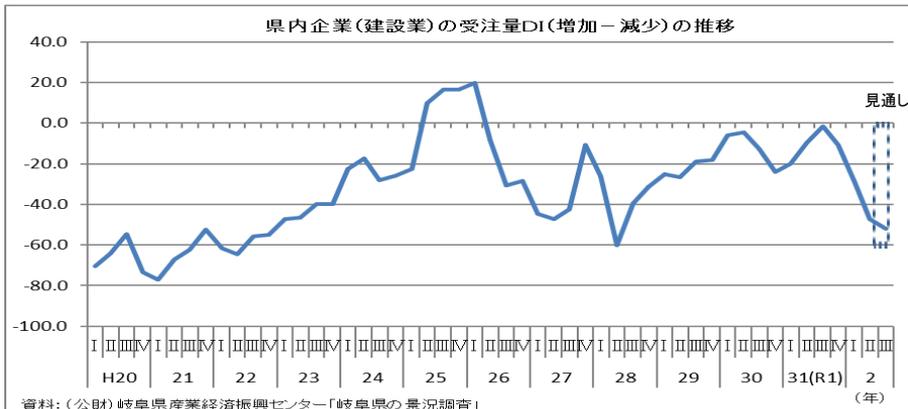
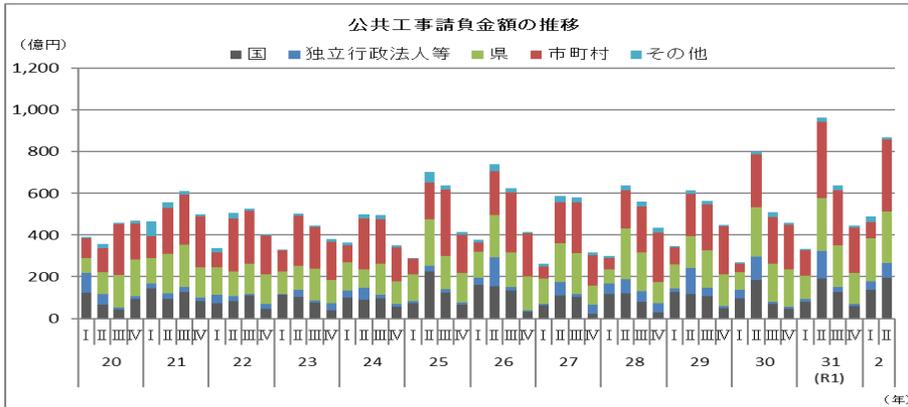


現場の動き

- ◆例年では夏休みに学校のフローリング工事が多いが、今年は夏休み自体が短くなったため、仕事が減ると聞いている。(木材製品製造)
- ◆非住宅建物においては、鉄骨需給の逼迫による価格高騰等の影響を受けて建物の木造化が普及しつつあったが、直近では鉄骨価格が低下傾向にあるため、木造化の流れが止まってしまうことを危惧している。(木材製品製造)
- ◆住宅展示場の来場者は元の水準に戻りつつある。(建設)
- ◆7月は長雨の影響で製品の生産量が下がっている。加えて、コロナの影響で価格が下がっており、今後も更なる値下げ交渉が出てくると思われる。(製材)

公共工事

- 4－6月期の発注者別の公共工事請負金額は、国で前年同期比1.9%増加したものの、独立行政法人等で同▲47.2%、市町村で同▲6.2%減少するなど、全体で同▲9.9%減少した。
- 県内建設業の7－9月期の受注量DI見通しは前期比▲5.0ポイント、同採算DI見通しは同▲8.5ポイント低下した。



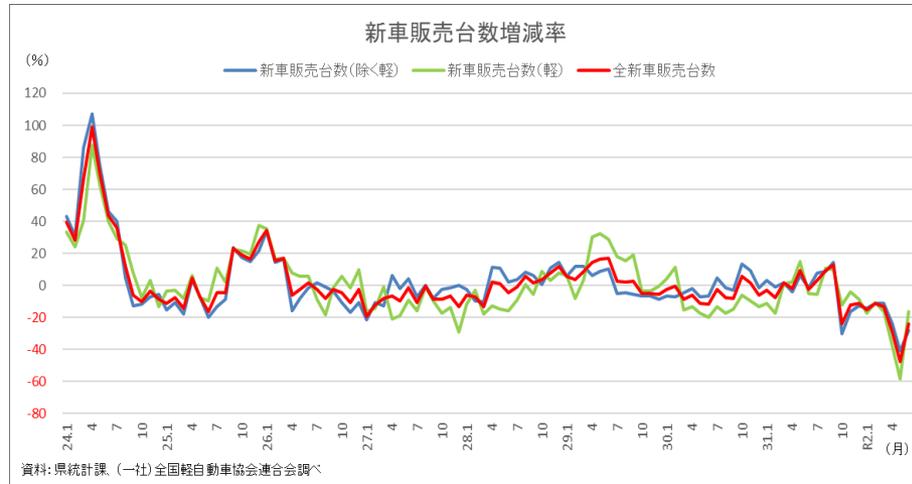
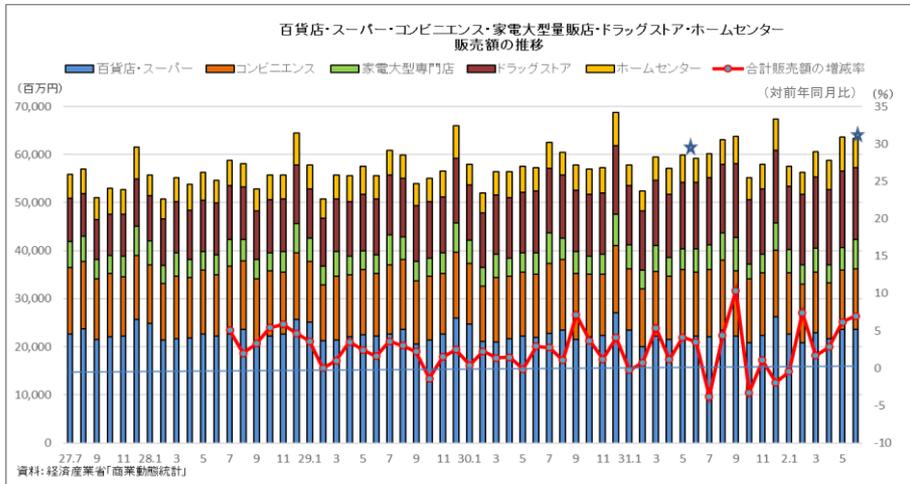
現場の動き

- ◆東海環状自動車道関係の発注が順調に出ている。
- ◆災害の影響が懸念される。見通しの通り工事が発注されない可能性も感じている。(以上、建設)

個人消費(流通・小売)

○6月はコンビニで前年同月比▲5.4%減少したものの、家電大型専門店と同28.3%、ホームセンターで同23.9%、ドラッグストアで同5.1%、百貨店・スーパーで同3.4%増加し、全体では同7.0%と増加した。

○6月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比▲27.8%と9ヶ月連続で減少し、軽自動車も同▲16.3%と9ヶ月連続で減少した。
○合算では同▲24.0%と、9ヶ月連続で前年同月を下回った。

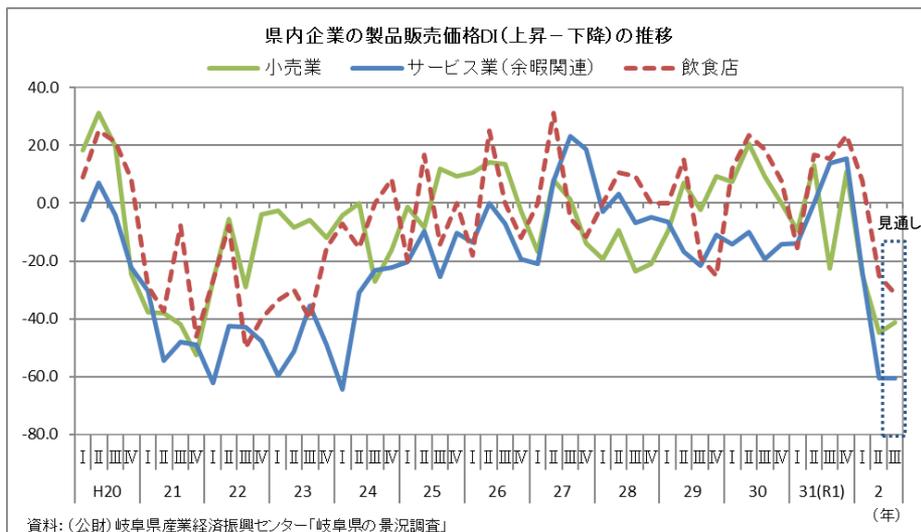
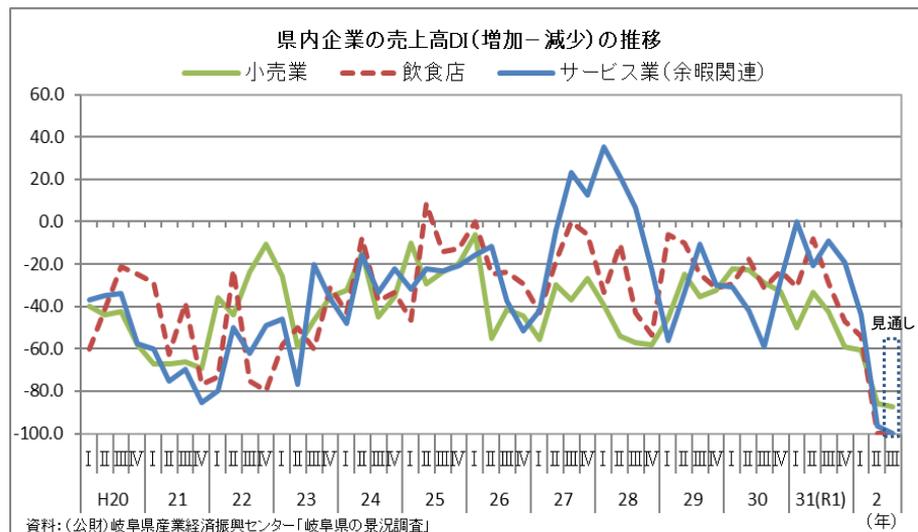


現場の動き

- ◆外出抑制や大雨の影響もあり、売上と客数が前年同月比で減少した。(コンビニ)
- ◆専門店が大きく伸びた。これまでの自粛の反動で伸びていると考えられる。また、7月は販売促進をかけたこともあるだろう。(岐阜市内大型商業施設)
- ◆夏の繁忙期に向けて採用活動を実施しているが、業界未経験者の方の応募が増えてきている印象。(各務原市内大型商業施設)
- ◆客足は前年とほぼ同じ、客単価が前年より少し高めとなっている。また、今年は水着の販売が低調に推移している。(大垣市内大型商業施設)
- ◆高付加価値の商品を増やすなど、店頭販売を工夫している。(岐阜市内スーパー)
- ◆店頭とネット販売を合わせた全体の売上は前年同月比で10%増加。自粛の反動で伸びていると思われる。(岐阜市内大型スポーツ用品店)

個人消費(流通・小売)－2

- 7－9月期の売上高DI見通しは、サービス(余暇関連)では前期比▲3.6ポイント低下。小売業で同▲1.3ポイント低下し、小売業と飲食店ではDI値見通しがマイナス100となった。
- 同じく販売価格DI見通しは、飲食店で前期比▲6.2ポイント低下し、小売業で同3.5ポイント上昇した。サービス業(余暇関連)では、前期比同水準となった。



現場の動き

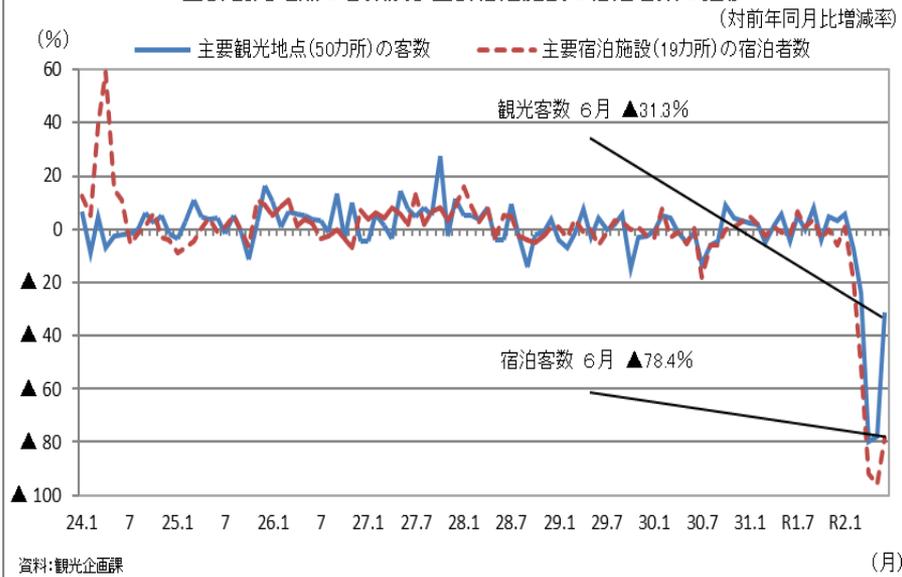
- ◆菓子店の売上は前年同月比▲19%。足元では第二波が襲来しているが、売上は徐々に回復傾向にある。飲食店は同▲23%。ブティックは同▲25%。大雨の影響で人通りが少ない日が続いた。商店街では、一部イベントを再開した。引き続き消毒用アルコールを数か所設置し、安全対策をとりながら、他のイベントやバーゲンの再開を目指している。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆日用品・雑貨店の売上は前年同月比▲20%。新型コロナウイルス対策用品のうち、手作り布マスク用のガーゼ、さらしゴム紐の勢いが止まった。夏物の盛り上がりについても全くない状況。法人からの受注も減少しており、厳しい状況。和菓子店は同3%程度増加。贈答用ではなく自己消費用の需要が伸びている。(大垣市商店街)
- ◆家電販売店の売上は前年同月比30%増加。カメラ・プリント店は、小売部門で同▲67%、撮影部門で同▲20%。展示会の中止や、観光客の戻りが芳しくないことが要因。(高山市商店街)

観光

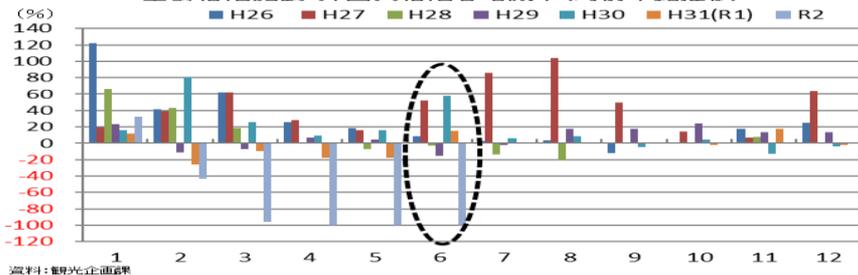
○主要観光地における6月の観光客数は、前年同月比▲31.3%の減少と5ヶ月連続で前年同月を下回った。主要宿泊施設における宿泊者数は、前年同期比▲78.4%の減少と5ヶ月連続で前年同月を下回った。

○6月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比▲99.9%減少と大幅に減少し、5ヶ月連続で前年同月を下回った。

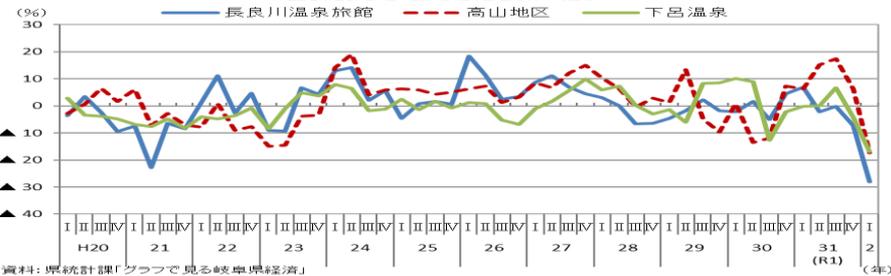
主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



主要宿泊施設 外国人宿泊客増減率(対前年比推移)



主要観光地 観光宿泊客数の推移

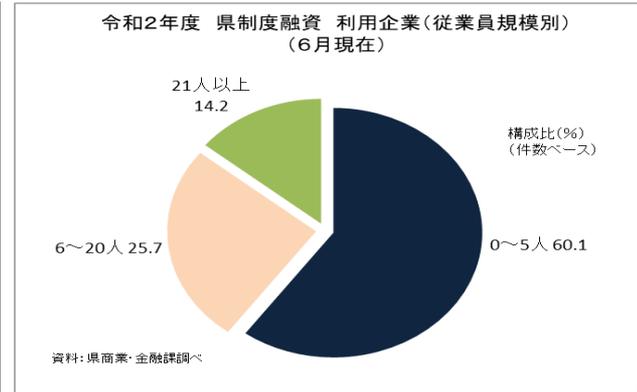
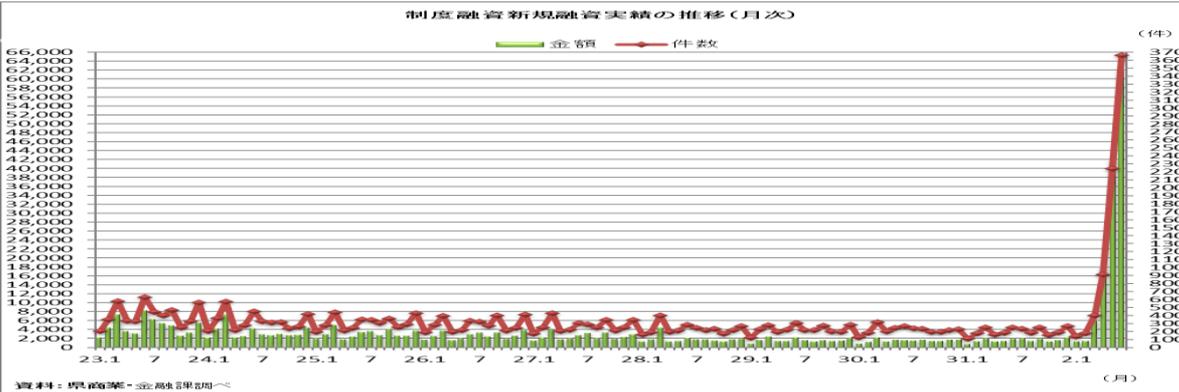
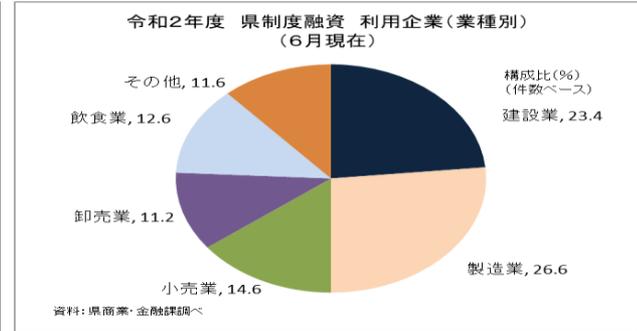
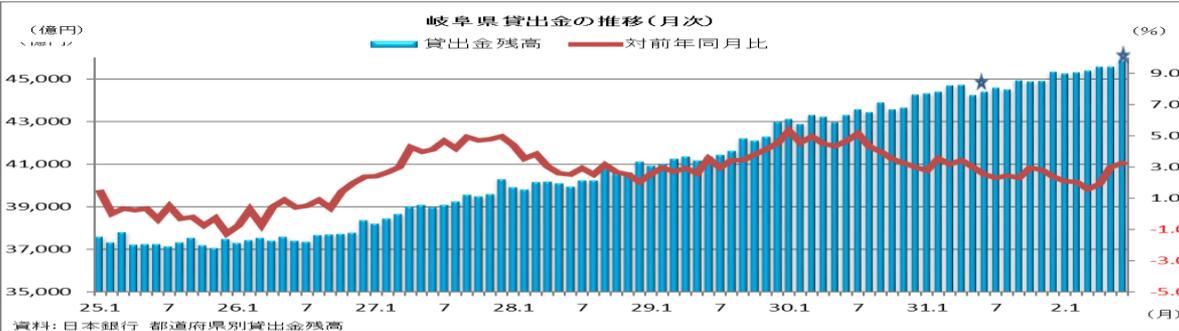


現場の動き

- ◆個人の予約は徐々に入っている。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆県の宿泊キャンペーンを多くの方にご利用いただいている。(高山市内、下呂市内の宿泊施設)
- ◆宿泊キャンペーンはありがたいが、その後が不安。(奥飛騨の宿泊施設)
- ◆豪雨による道路の通行規制等で予約が大幅に減るとされる。(奥飛騨の宿泊施設)
- ◆新型コロナウイルスの終息後は台湾やオーストラリアなど感染者が少ない地域をターゲットとする予定。(岐阜市内、高山市内の宿泊施設)
- ◆外国人採用については様子を見たい。(高山市内、下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

- 6月の岐阜県貸出金残高は、4兆5,887億円で前年同月比3.3%とプラス基調が続く。
- 6月の制度融資実績は、金額が62,428百万円で前年同月比3,128.5%と大幅に増加した。件数は3,661件で同1,382.2%と大幅に増加した。
- 従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の60.1%を占めている。

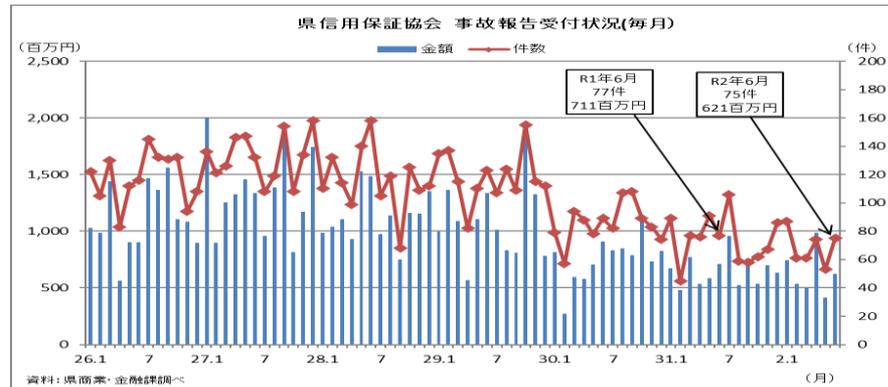
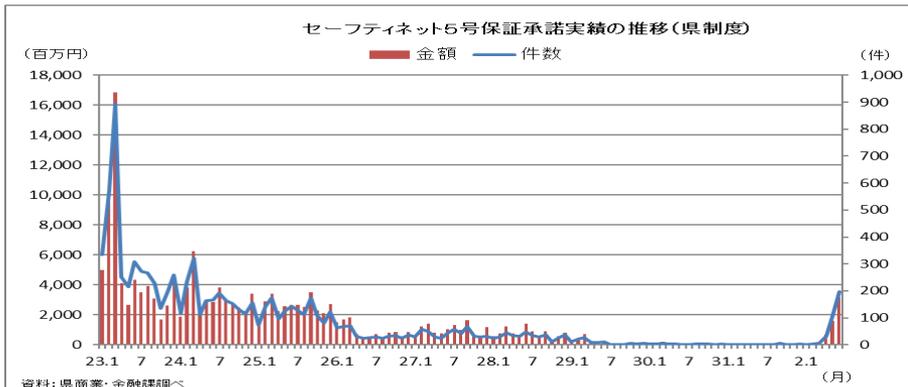
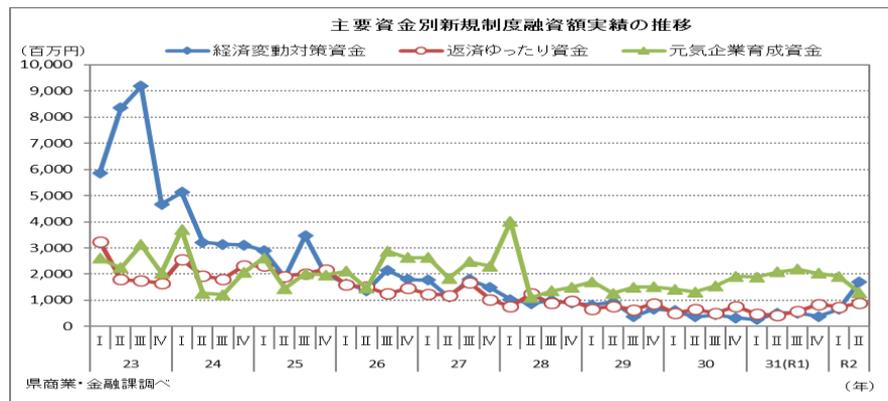
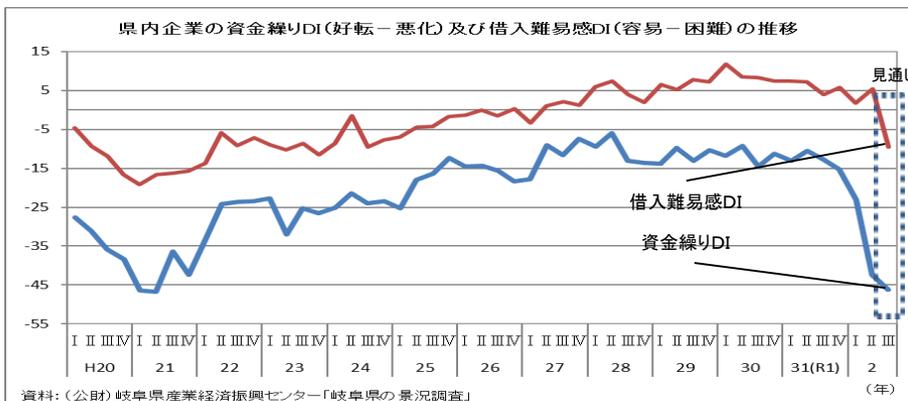


現場の動き

- ◆不測の事態への対応手段を確保するため、コミットメントライン契約を締結する製造業の企業が増えている。
- ◆融資件数は7月も衰えていない。手元の流動性を確保したい企業が多く、運転資金の調達意欲が旺盛である。
- ◆最近になり第2波が来ていることから、今後の融資動向は不透明な状況。
- ◆融資の9割以上が運転資金となっている。
- ◆企業の経営状況は5、6月の底は抜けたものの、新型コロナウイルス感染拡大前の水準には戻らず、今後の見通しが不透明な状態。売上が前年度比2割減という企業が多く見られる。(以上、金融)

資金繰り-2

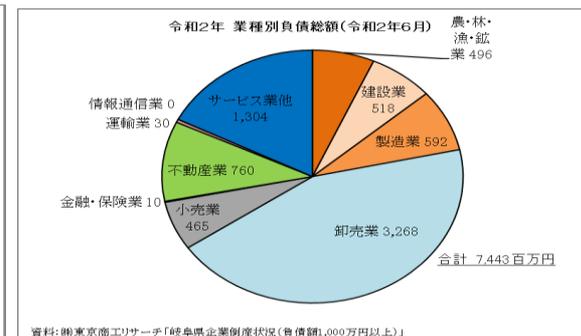
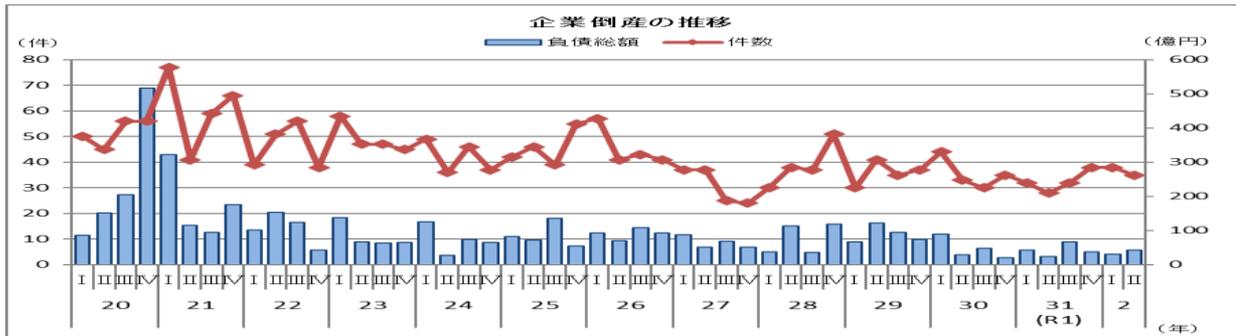
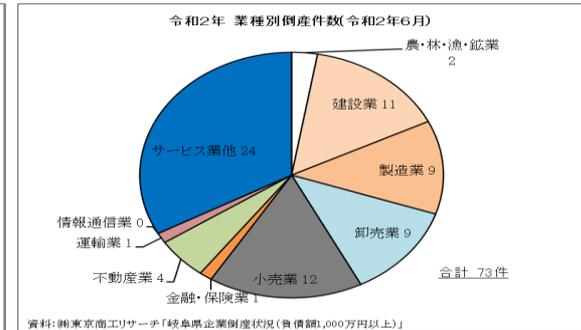
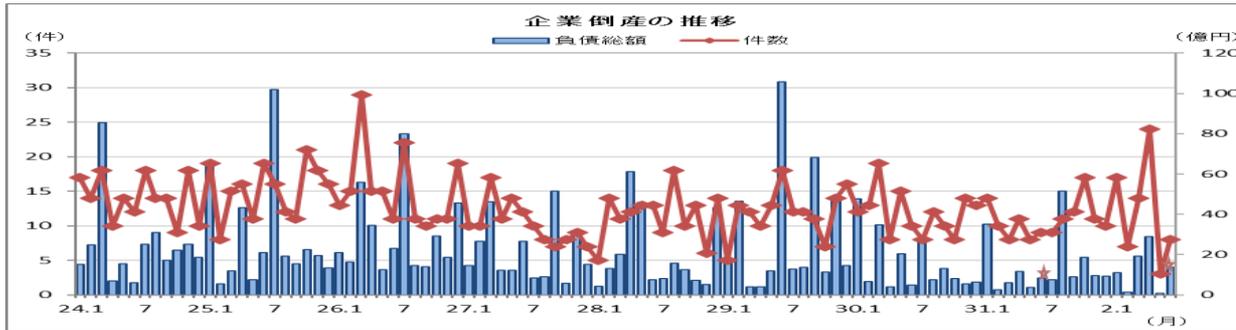
- 7-9月期の資金繰りDI見通しは▲46.2で、前期比▲3.8ポイント悪化した。同借入難易感DI見通しは▲9.6で、同▲15.0ポイント悪化した。
- 4-6月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比232.7%と5期連続で増加、返済ゆったり資金で同102.2%と4期連続で増加、元気企業育成資金で同▲38.1%と9期ぶりに減少となった。
- 6月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が198件で前年同月比197件増加、金額は3,186百万円で同3,176百万円増加した。
- 6月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は75件で前年同月比▲2.6%と減少し、金額も621百万円で同▲12.7%と減少した。



倒産

○6月単月の倒産件数は前月比5件増加の8件、負債総額は前月比1,287百万円増加の1,350百万円となった。

○1月から6月までの累計倒産件数は73件となり、前年同期の60件から13件増加。累計負債総額は7,443百万円となり、前年同期の6,704百万円から739百万円増加で推移した。



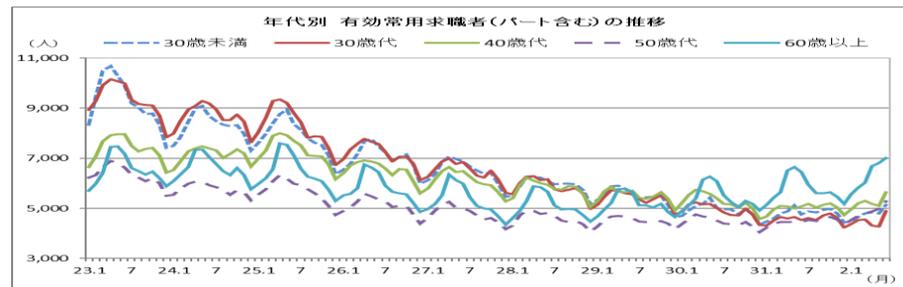
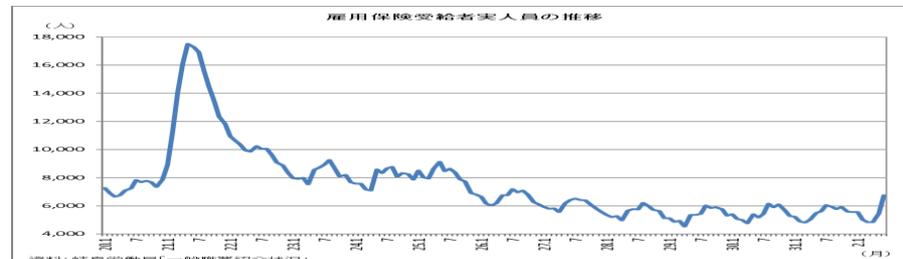
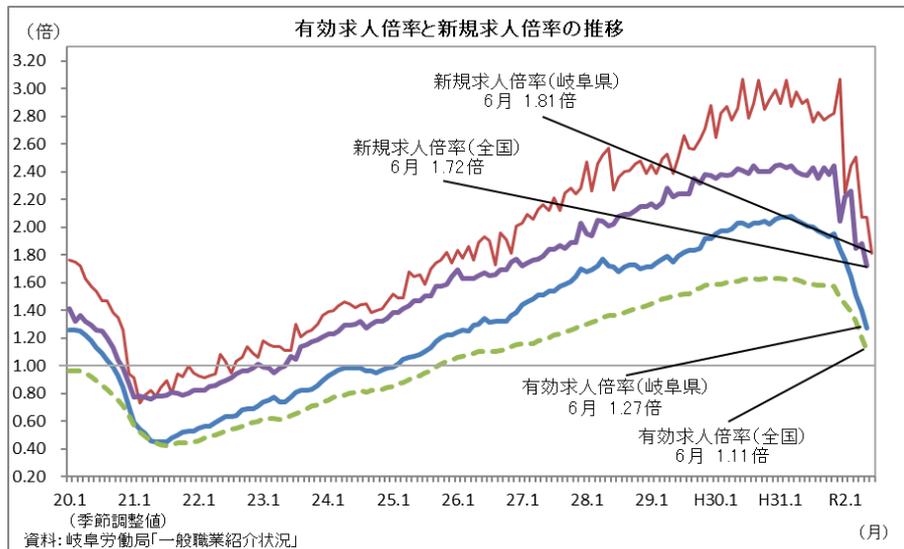
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆令和2年度4月度の倒産件数は明らかに増加したが、令和2年5月度は緊急事態宣言に伴い裁判所や弁護士事務所の業務が縮小したことで破産などの法的手続きが滞り、倒産件数は激減した。同宣言解除後の当月は反動増加が予想されたものの、結果は大幅な増加とはならなかった。裁判所の業務は既に再開しているが、破産などの事務処理が急に進むものではない様子にある。また、金融機関の柔軟、迅速な対応で政府の金融支援策の利用が広がっていることも倒産の急増を抑えている側面も窺われる。
- ◆水面下では、制度融資や支援策などを活用せずに休業に陥ったケースも見られ、今後は「経営破綻」に加え、「休業業」の動向にも目が離せない。

雇用

- 6月の有効求人倍率は1.27倍と前月比▲0.13ポイントと低下。「1.2倍」台は73ヶ月ぶりの水準。
- 6月の新規求人倍率は1.81倍と前月比▲0.26ポイントと低下。

- 6月の雇用保険受給者人員は、前月比20.4%と増加した。
- 年代別有効常用求職者は、30歳未満、30歳代で前年同月比増加に転じたため、全ての年代で同比增加した。



現場の動き

- ◆人材は過剰になっていると感じているが、従業員は通常どおり出勤させている。(輸送用機械)
- ◆今年度は新卒者を希望どおり確保できなかったため、来年度は逆にコロナ禍で余剰となった優秀な人材を採用できるのではないかと期待している。(輸送用機械)
- ◆4、5、6月は人員が余剰であったが、現在は不足している状況である。(非鉄金属製造)
- ◆小ロット多品種製品の積極的な受注と付加価値の確保に向けた改善活動で、人員については派遣社員も正社員も一人として減らすことなく乗り切れる計画を立てている。(生産用機械器具製造)
- ◆余剰感はあるが、従業員はほとんど減らしていない。(はん用機械器具製造)
- ◆事務職は募集開始後すぐに応募が集まるが、現場作業職は集まらない。(紙製品製造)

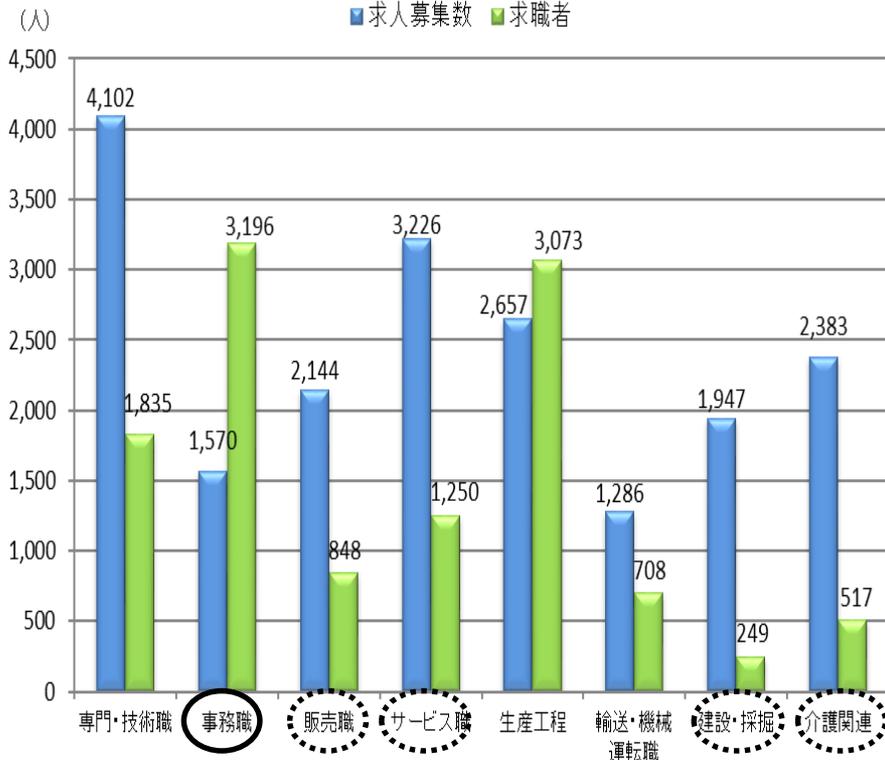
雇用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で7.8倍、介護関連で4.6倍、サービス職で2.6倍、販売職で2.5倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0.5倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

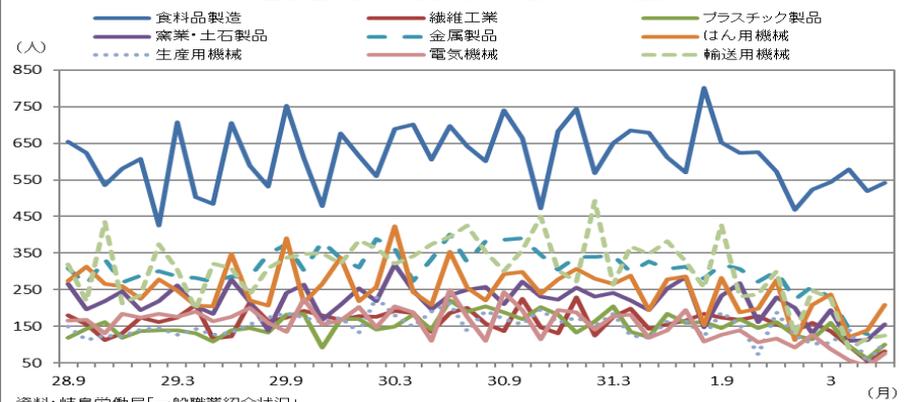
○6月の主要産業新規求人数は、輸送用機械で前年同月比▲67.5%、繊維工業で同▲47.4%、電気機械で同▲46.4%、プラスチック製品で同▲45.9%、金属製品で同▲40.1%、窯業・土石製品で同▲38.7%、生産用機械で同▲34.1%となるなど、主要製造業の全てで前年同月比で減少した。

6月 職業別有効求人募集数・有効求職者数(常用)



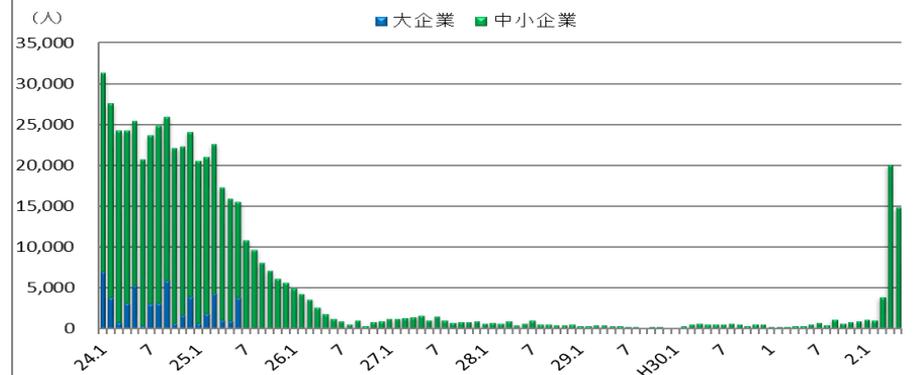
資料: 岐阜労働局「求人・求職」バランスシート

主要産業別 新規求人数(一般+パート)推移



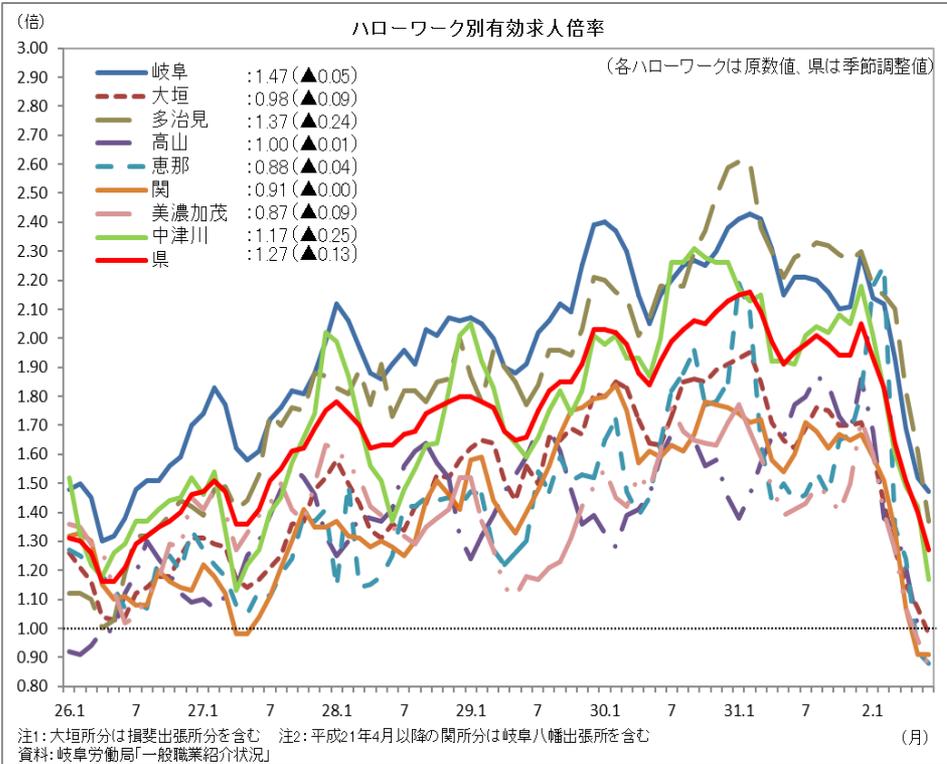
資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

雇用調整助成金の申請状況



資料: 厚生労働省「雇用調整助成金等に関する「休業等実施計画届」受理状況」

雇用(地域別)



○6月のハローワーク別有効求人倍率は、全ての地域で前月比で低下した。

現場の動き(前月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数は減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数は増加、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数は増加、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は減少、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数は減少、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

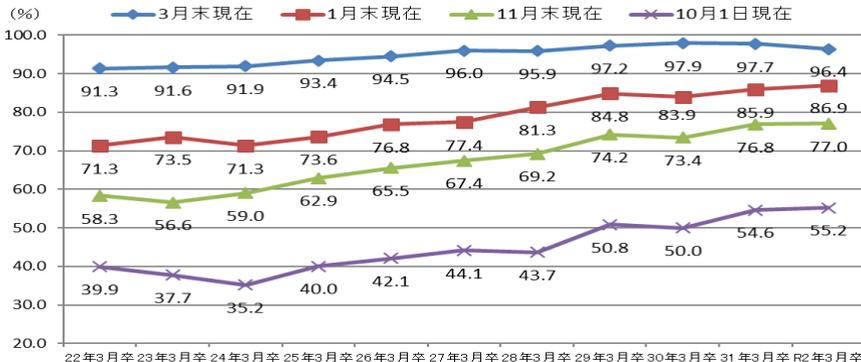
<窓口の様子> ※前月比

- ◆大垣のみ混雑が緩和された。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

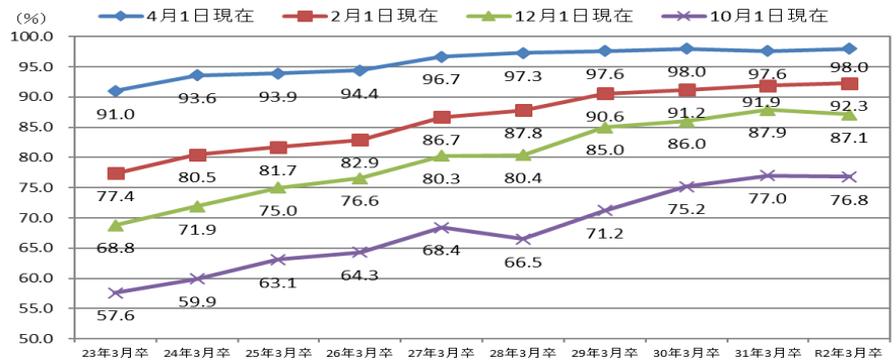
- 岐阜県の令和2年3月末時点の大学・短大卒業者(令和2年3月卒業)の就職内定率は、96.4%であり、前年同時点と比べ▲1.3ポイント低下した。
- 全国の令和2年4月1日現在の大学・短大卒業者(令和2年3月卒業)内定率は98.0%であり、前年同時点と比べ0.4ポイント上昇した。

新規卒業者(大学・短大等)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者(大学・短大等)の就職状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

現場の動き(2021卒の動きなど)

<大学へのヒアリング>

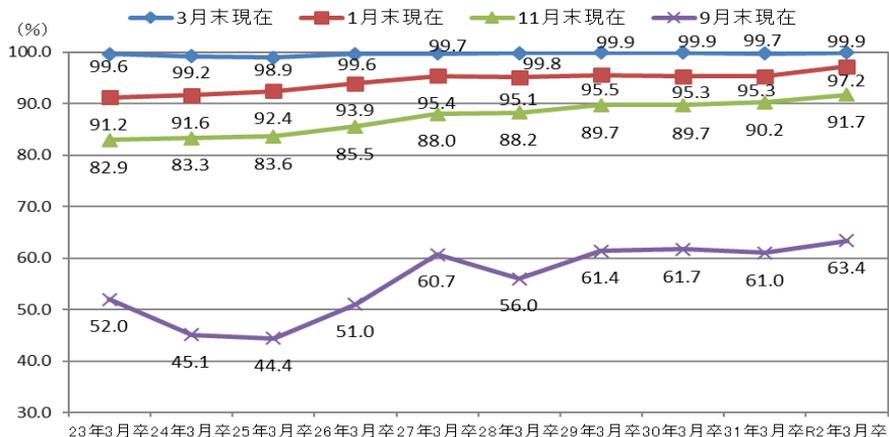
- ◆4年生よりも3年生からの相談が増えてきた。3年生の相談内容については、就活全般のやり方、自己分析・自己PRなどが中心。
- ◆内々定の状況は50~60%ほどで、思ったより悪くないという感覚。緊急事態宣言明けから動いていた学生は7月上旬頃までに内々定を獲得する学生多かった。
- ◆3年生のインターンシップへの意欲は高く、単位認定型のインターンシップについては昨年の倍近い申込が入っている。ただ、7月の下旬から受け入れをお願いしていた企業から、新型コロナウイルスの感染が再拡大している影響で、実施ができなくなった、という連絡が増え始めている。(以上、岐阜県内大学)
- ◆学生相談は電話、メール、オンラインにて実施している。
- ◆3年生に向けてはオンラインでガイダンスを実施した。危機感を感じている学生が多い一方で、積極的にインターンシップに申し込んで動いている学生と、慎重になって動いていない学生の差が大きい。
- ◆インターンシップについては、公務員希望の学生が増えている。(以上、愛知県内大学)

雇用(高校新卒者の就職)

○岐阜県の令和2年3月末時点の高校卒業者(令和2年3月卒業)就職内定率は99.9%であり、前年同時点と比べ0.2ポイント上昇した。

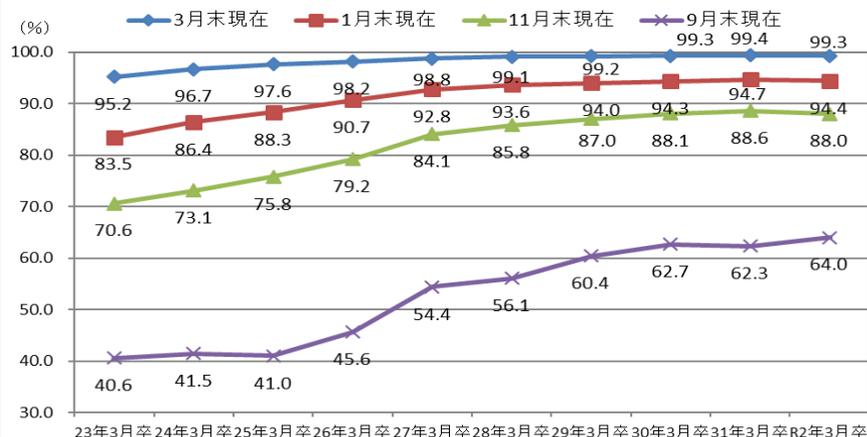
○全国の令和2年3月末時点の高校卒業者(令和2年3月卒業)就職内定率は99.3%であり、前年同時点と比べ▲0.1ポイントと低下した。

新規卒業者(高校)の就職内定率の推移<岐阜県>



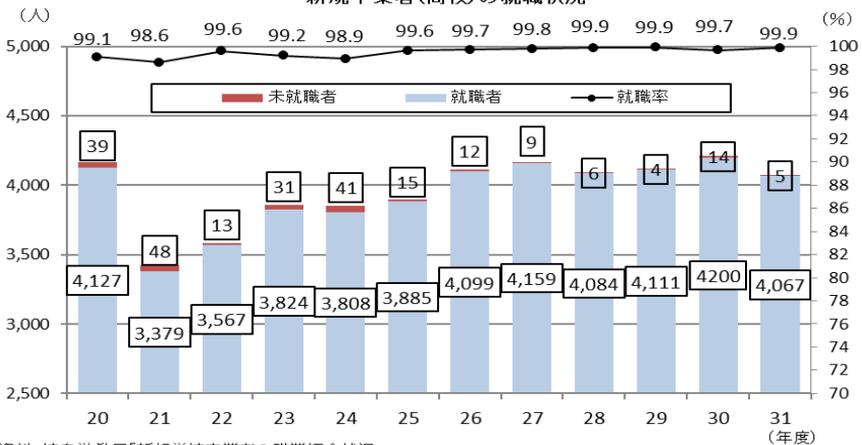
資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

新規卒業者(高校)の就職内定率の推移<全国>



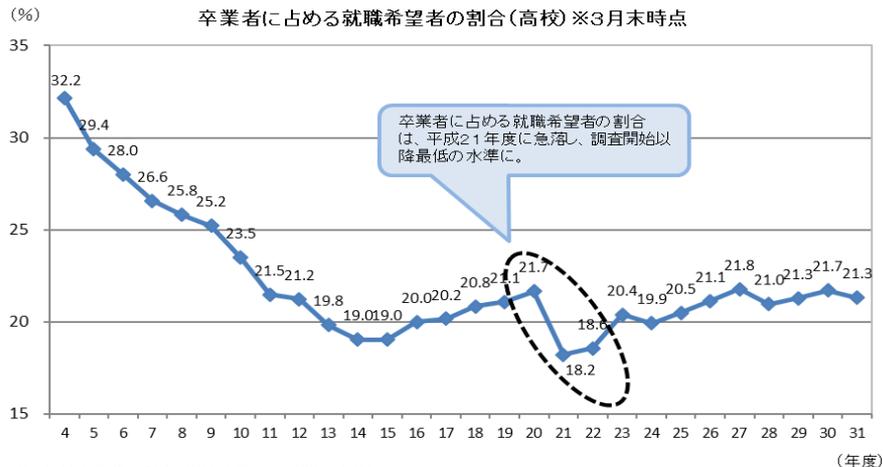
資料: 厚生労働省「高校・中学新卒者の求人・求職・内定状況(高校・中学新卒者)」

新規卒業者(高校)の就職状況



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

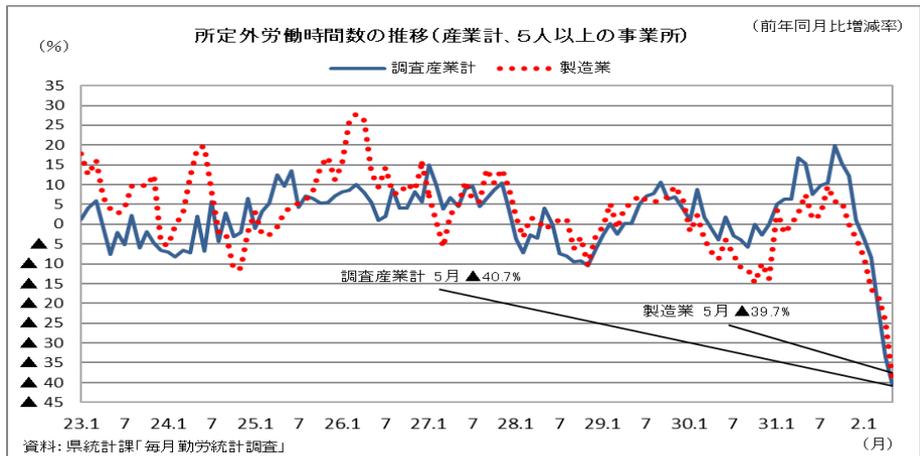
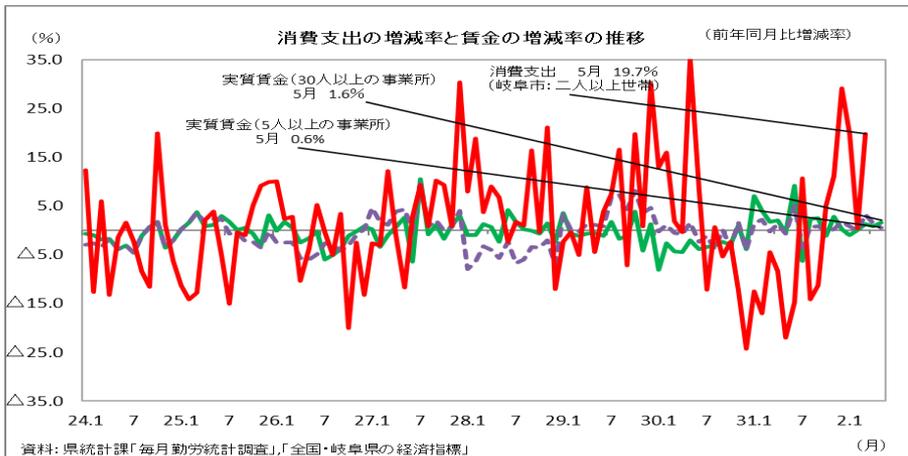
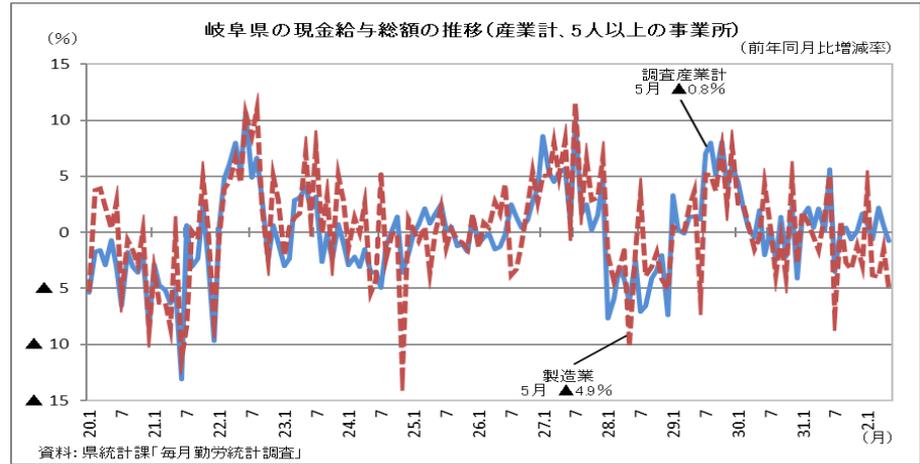
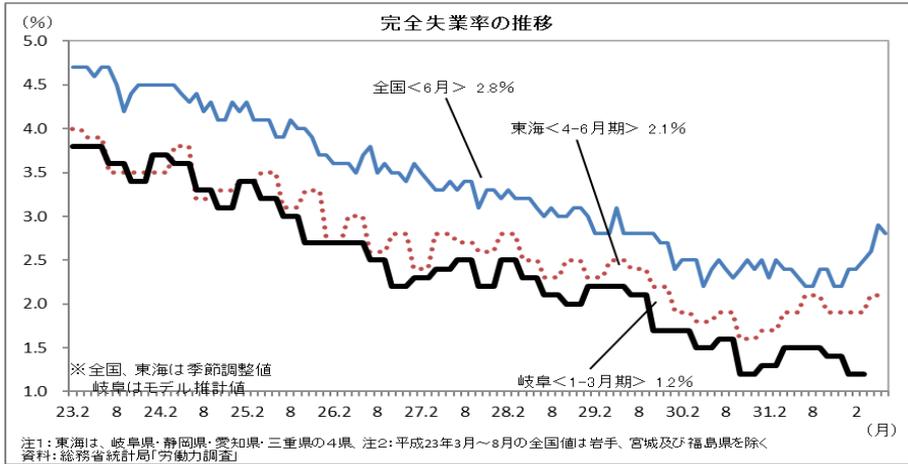
卒業者に占める就職希望者の割合(高校)※3月末時点



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

雇 用(完全失業率等)

- 全国の6月の完全失業率は2.8%で前月比0.1ポイント低下。岐阜県の1-3月期の平均は1.2%で前期比▲0.2ポイントと減少。
- 5月の岐阜県現金給与総額は、全産業で前年同月比▲0.8%、製造業では同▲4.9%と減少。
- 5月の実質賃金増減率は、5人以上の事業所は前年同月比0.6%増加、30人以上の事業所は同1.6%増加。消費支出については同19.7%と6ヶ月連続で増加した。
- 5月の所定外労働時間数は前年同月比▲40.7%と減少した。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、5月の鉱工業生産指数では、主な産業の全てで低下となった。ヒアリングにおいては、受注が大幅に減少しており今後の見通しが立っていないとの声があった一方で、6月を底として7月は前年同月比で80%程度まで生産が戻ったなど、回復基調にあるという声も聞かれた。
- 地場産業は、5月の鉱工業生産指数では、主な地場産業の全てで低下となった。ヒアリングにおいては、これまでは新型コロナウイルスの影響前に受注した仕事があったが、その仕事も尽き、これから厳しい状況になるとの声があった。
- 設備投資は、6月の金属工作機械受注額について、前年同月を下回った。前年同月を下回ったのは、国内向けは19ヶ月連続、海外向けは20ヶ月連続となった。ヒアリングにおいては、計画していた設備投資がペンディングになるなど設備投資意欲は低いとの声も聞かれた。
- 個人消費は、小売店の6月の販売額について、コンビニでは落ち込みが続いたが、ホームセンターやドラッグストア等の販売が増加し、全体では前年同月比で5ヶ月連続の増加となった。ヒアリングにおいては、春先の自粛の反動で消費が伸びていると思われるとの声が多くあった。
- 観光は、前年と比較し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による外出自粛ムードもあり、観光地、宿泊施設ともに前年同月を下回った。インバウンドは、ほぼゼロに近い数字となった。ヒアリングにおいては、県の宿泊キャンペーンを多くの方にご利用いただいている一方で、終了後に不安を感じる声があった。
- 企業の資金繰りは、6月の制度融資実績で、前月に続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加した。金融機関からは、手元の流動性を確保したい企業が多く、運転資金の調達意欲が旺盛であるとの声も聞かれた。
- 雇用面は、6月の有効求人倍率は、1.27倍と73ヶ月ぶりに1.2倍台の水準にまで低下した。ヒアリングにおいて、来年度はコロナ禍で余剰となった優秀な人材を採用できるのではないかと期待しているとの声も聞かれたが、人員に過剰感を感じるという声も多かった。